

「和尚」と書いて「カズタカ」と読みます。ちなみに私の実家はお寺ではありません。父親は普通の鉄鋼マンでした。室蘭で過ごした小中高大でのあだ名は「おしょうさん」でしたが、今でも名前負けしていると自負しております。

マラソンが趣味です。結婚後の不摂生で脂肪肝と診断されたのをきっかけに始めました。心地よい発汗と程よい爽快感、そしてゴール後のビール。

今では北海道マラソンは勿論のこと、東京、大阪、沖縄、海外マラソンに至るまで観光込みで遠征しております。マラソンは山あり谷ありの人生そのものとよく聞きます。始めに跳ばし過ぎるとバテるためペース配分が必要です。途中で仮設トイレに駆け込んだり、エイド(補給所)で給水・給食しながら42.195km先のゴールを目指します。50代になった今でも、サブ4(4時間以内でフルマラソン完走)を維持するためには“継続”した練習と“集中”した追い込みが欠かせません。

技術士は、取得してからが本当の技術者としてのスタートであると先輩から教わりました。受検7回目にして建設部門(土質)に合格、総合技術監理部門と応用理学部門(地質)も運よく取得。軟弱地盤屋さんの私が“土系部門”をコンプリートすることができたのも、マラソン同様、継続した試験勉強と集中したポイント対策の賜物であったと実感します。

建設コンサルタント業は、知的産業でありサービス業でもあります。肩書だけではなく、トップランナーとして継続した資質向上・アップデートが不可欠です。諺「衣ばかりで和尚はできぬ」ではありませんが、常に古い固定観念をふるい落とし、なまくら坊主にならないように走り続ける日々です。

紙本 和尚(かみもと かずたか)

- 建設部門(土質及び基礎)
- 応用理学部門(地質)
- 総合技術監理部門(土質及び基礎)

勤務先

株式会社シン技術コンサル



→次号は、清水順二さん(建設/応用理学部門)

2006年に益村測量設計(株)に入社し、主に河川構造物に関する設計に携わってきました。技術士試験には何度も挑戦して、落ちて、を繰り返しましたが、令和2年度試験でなんとか合格することができ、技術士登録をさせていただきました。当時の弊社に在籍する技術士は益村公人社長1名でしたので、筆記試験合格後、社長に口頭試験へ向けてご相談をするとともに、日頃お世話になっている先輩技術士や、大学の先輩でもおられる技術士の方々にお願いを申し上げ、札幌市のコンサルタント会社へ何度かお邪魔をさせていただき、模擬試験や対策をご指導いただきました。とても貴重で大切な経験となり、先輩技術士の方々に深く感謝申し上げます。口頭試験では、当時東京都は緊急事態宣言の最中であり、夜8時には飲食店の明かりが消えている状況でした。模擬試験等の事前準備や、試験官からのフォローもあり、なんとか口頭試験を乗り越えた後、デパ地下でお惣菜とお酒を大人買いして、ホテルの部屋で一人打ち上げをしたのは良い思い出です。

そして晴れて技術士に合格し、日々業務を通じて自己研鑽に励んでおりますが、更なる挑戦として令和4年大学院博士後期課程に社会人枠で入学しました。関係者の皆様にお支えをいただきながら今を過ごすにあたり、本当に「ひと」のつながりは貴重で大切だと実感しております。

最後に、網走はオホーツク海や広大な大地が生み出す農水産物や、網走が発祥の地であるすり身等の食、土木学会選奨土木遺産である網走港帽子岩ケーソンドックや網走橋、歴史ある網走監獄や流水世界を体感できるオホーツク流氷館の観光等、魅力溢れる場所ですので是非網走にお越しください。

水野 敏裕(みずの としひろ)

- 建設部門
(河川、砂防及び海岸・海洋)

勤務先

益村測量設計株式会社



→次号は、水野真敏さん(建設部門)